

忙しい日々を乗り切る5つの教師力

石川 満（三河学力研）

毎日毎日、うまくいかないことばかりです。忙しい日々を乗り切ることで精一杯の私が、「教師力」なんて場違いで、おこがましいのですが、せっかくの機会なので、日々を乗り切るために努めていることや考えていることをまとめさせていただきます。

1 授業力

教師が最も大切にしなくてはならない力だと考えます。授業力を身につけるには、研究心を持つことが必要だと思います。研究するにも、いろいろな方法があります。私はこれまで、いくつかのセミナーに参加したり、教育書を読んだりして、それを参考にして実践に生かしました。昨年度は国語の物語文指導と、算数の割合指導に力を入れました。その単元を迎えるときは、学習指導要領、指導書に目を通し、ネットで検索し、いろんな実践を参考にしています。そうして授業計画書っぽいものを作る

こともあります。そうすると、自分はずいぶんにもどんな力をつけたのか、そのためにはどんな手立てがベストなのか、少しずつ定まってくるように思います。

実践を行うと、授業をしての感想や子どもの反応、振り返り、板書の写真を、簡単な日記のように記録として残しています。時には、授業をボイスレコーダーに録音して、聞き直すこともしています。そうすれば、自ずと子どもへの正しい発問、指示、説明の仕方がわかってくるものではないでしょうか。

2 発信力

私の勤務する地域では毎年、教育委員会が、教員の力量向上のために「教育研究論文」を募集しています。仮説を立て、実践をし、検証するという形でレポートにまとめるわけですが、ただまとめるだけでは自分の力にはなっていないと思うようになり

ました。なぜなら、まだ内向きにとどまっているからです。

私は、学力研に入会して四年目くらいに地域サークルを立ち上げました。インプットばかりではなく、アウトプットの必要性を感じたからです。月に一度のサークルですが、パソコンやプロジェクト、子どものノートを会場に持っていき、授業や子どもの様子を仲間に報告しています。

また、このところ、学力研の分科会でレポートを報告する機会もいただいています。そして、組合の教研集会での報告の機会もあります。そのように年に何度か発信させていただく機会があるので、「がんばらなきゃ」「しつかりやろう」という気にもなります。日々の実践も、多少なりとも聞き手を意識して取り組むようになります。このように実践をまとめるだけでなく、発信するということは、とても有意義だと思います。

3 見通し力

私は高学年を受け持つことが多いのですが、高学年担任を乗り切るには、何よりも見通しを持つことが大切なのではないです

ようか。学校の年間計画、毎月の計画には、行事などがぎっしりと書かれています。子どもも、高学年ともなると、学級だけでなく、委員会、課外活動などいろいろな場に関わり、教師がはつきりとした見通しを持っていないと、行事、授業、子どもの対応に振り回されてしまいます。

見通しを持つために、「書き込む」ことを重視しています。例えば週案については、来週、次の週、とにかく情報は分かったら次々と書き込みます。その日に教える新出漢字も書き込みます。また、授業については、主要な教科は自分用の教科書を用意し、毎時の目標、テストに出る問題など書き込んでいきます。

そして、教室の黒板の隅には、「昼放課に飼育委員会は視聴覚室に集合」「エプロン、シューズ持ち帰り」など、その日の特別な連絡を書き込むようにしています。子どものためというよりも、半分は自分の覚えのためです。でも、イレギュラーなことがあるだけで、不安定になってしまう子どももいると思います。子どもは、見通しを持ってたほうが安心し落ち着きます。

4 論理的思考力

くだいようですが、本当に気ぜわしい毎日です。すると、教科書を終わらせる、行事をこなす、という毎日になりがちです。それでは教師も、子どもも、充実した生活を送ることができません。教師のそのような受け身の思考をきつと見抜く子どももいることでしょう。

そこで私は、「何のためにするのか」という問いかけを大切にしたいと思っています。

ある日の給食の準備中、友達と話したくて立ち歩いている子がいました。私は「どうして給食の準備中は、静かに座ってないといけないのか、わかる？」と問いかけました。子どもなりの答えを聞き、私も、私なりの考えを伝えました。すると、きちんと席に着いて待つようになりました。

なぜ、シャーペンではなく鉛筆を使わなくてはいけないのか、卒業式ではなぜ、保護者だけでなく来賓を招くのか：きちっと理由があります。子どもに説明するかどうかは別としても、教師が自問自答したり、論理的に裏付けたりすることは大切だと思います。

います。物事への取り組み方が変わるように思います。

5 切り替え力

指導困難なクラスなど大変な状況を一人で抱えすぎて、心を病んでしまい、教師を続けられなくなってしまうという話をよく耳にします。

私も、昨年度の一年間は、本当に大変でした。教室ぎっしりの三十九人の子どもの中で、二人の子が、キレたり、席を離れたり、という状態でした。そんな時に、私は「抱え込まない」ことを意識しました。問題行動を起こした子への対応に追われ、クラス全体を見ることができないと判断したら、すぐに職員室へ電話をし、応援を呼びました。自分一人でなんとかしようと思わず、気持ちを切り替えました。

また、いくら子どもが大変でも、そのことを引きずらないようにしました。私の場合は、仕事帰りや、休日は、よく映画を観るようになりました。バンドを組んでいるのでイベントで演奏することも多々ありました。気持ちをリフレッシュさせることも、教師を長く続ける力になると思います。